

藤田謹一

題
字
弘前市長
福士文知



大正7年頃（於大井町自宅）



明治13、14年頃同窓生と共に（於弘前覚眠社）（○印藤田、△印佐藤紅緑、中学程度）



◀明治32年9月～同34年6月
大蔵省専売局属時代



▲明治35年2月～同37年7月
岩谷商会専務理事時代



明治42年秋、祖徠とくと結婚（於東京）



大正4年、日本亡命中の孫文を囲んで（於巢鴨・松柏軒）



大正14年頃、日活社長時代・池永京都撮影所長と共に（於京都）



大正10年正月頃、家族全員と共に

左より長女（近藤 昭58・6没）長男謙次（昭46・9没）
母圭子（昭40・1没）次男謙行（昭23・3没）父謙一（昭
21・3没）三男謙友（不破 昭60・6没）次女純代
四男謙介（昭20・7比島で戦死）五男謙五



大正15年頃、東京商業会議所会頭時代
(△印大山副会頭、女優森律子、□印成瀬貴族院書記官長)



昭和2年8月頃、家族と共に（於弘前・藤田別邸）



昭和3年頃、東京商工会議所会頭並びに初代日本商工会議所会頭時代
(於東京商工会議所議場、△印 渡辺鈍藏専務理事)



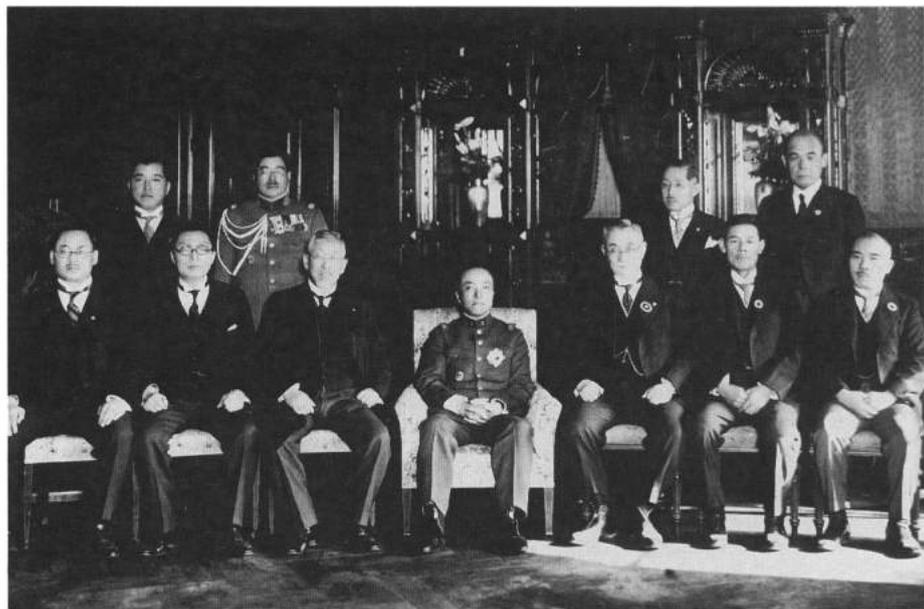
昭和3年御大礼記念博、閑院宮をご先導(上野公園)



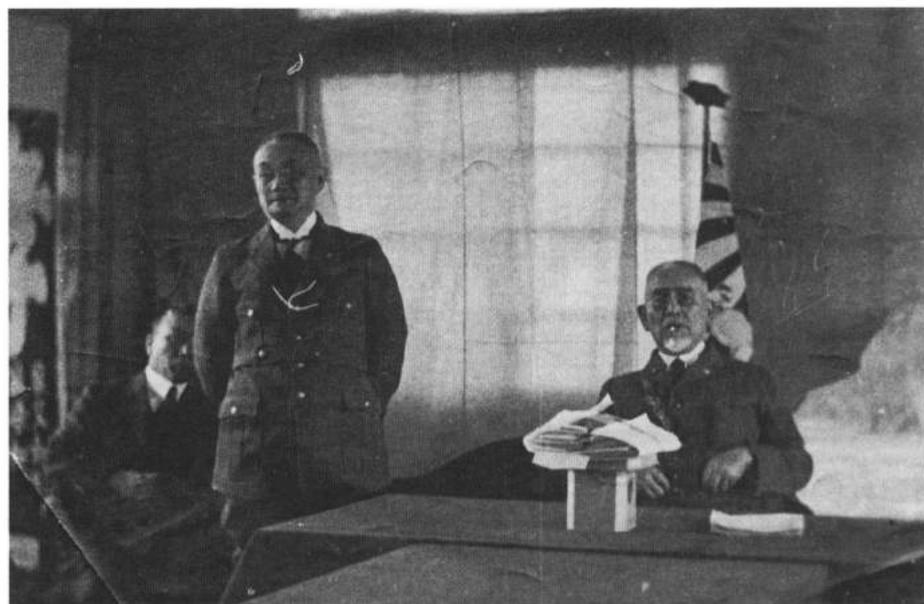
昭和3年4月25日、第11回国際労働会議に日本使用者代表として出席（於東京駅頭）



第11回国際労働会議場にて演説（於ジュネーブ）



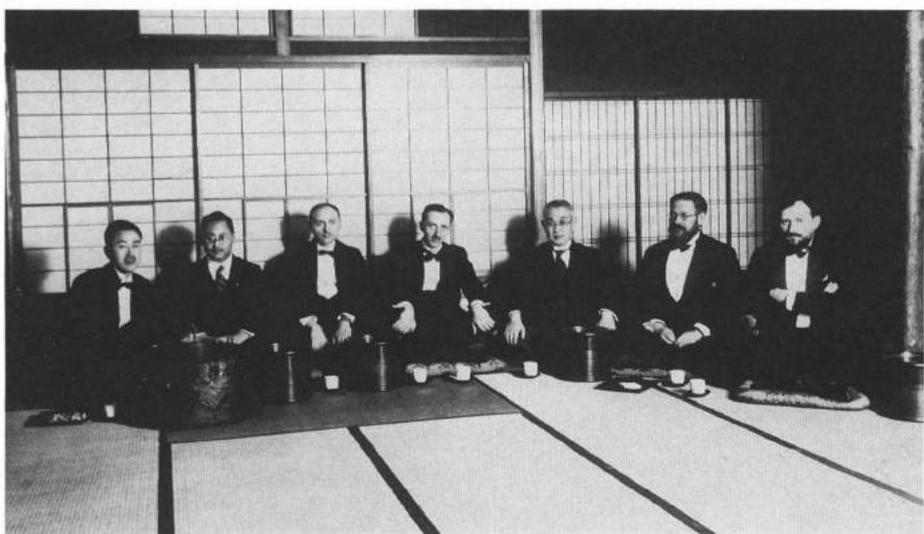
昭和3、4年頃東久邇宮殿下をお迎えして
(於東京商工会議所・会頭時代、殿下の左は中橋商工大臣)



昭和3年頃、日本少年団連盟総長（事務代行）に就任
後藤新平前総長と交代の挨拶をかわす



日活社長として尾上松之助（前列左より2人目）と共に



フランス政治家アルベール・トーマ氏らを迎えて



昭和4、5年頃、商工会議所新年宴会（首相官邸）



◀ 昭和3年6月頃、首相田中政友会総裁と共に
（於政友会本部前、右側は三上忠造氏）



修養社（吉祥寺）の学生と共に



津軽家の方々と共に

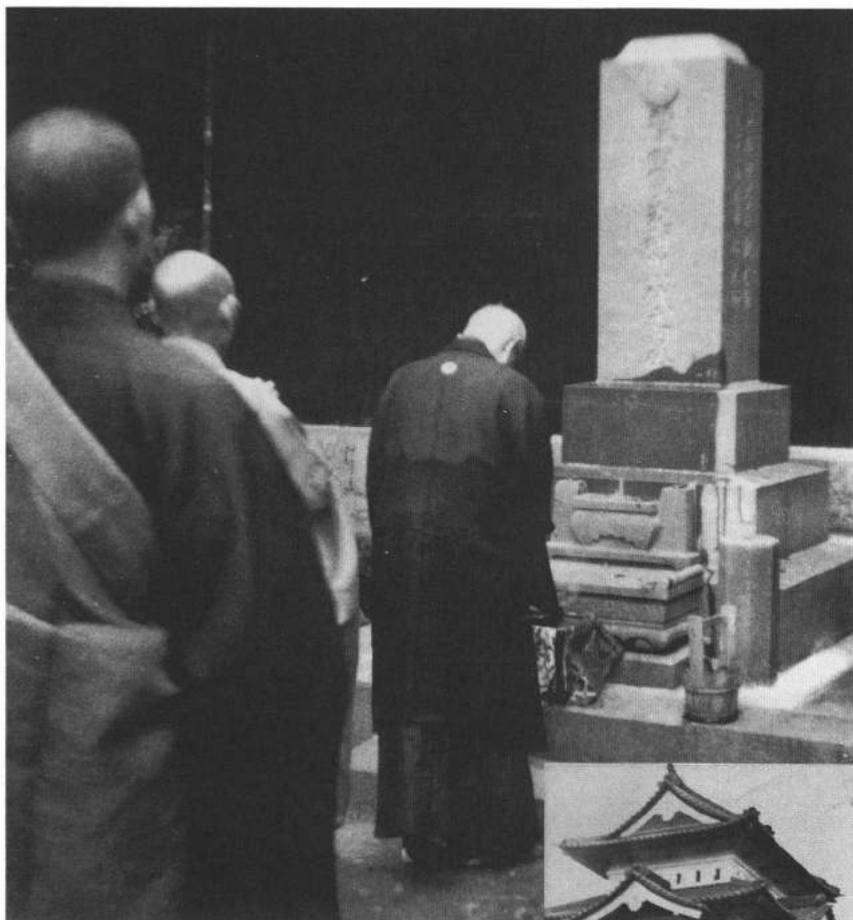
前列右より男爵津軽（分家）承靖氏、伯爵津軽（本家）義幸氏、（共に学習院学生）男爵末亡人理喜子氏（皇后女官）



昭和11年、家族と共に由比ヶ浜へ



同年、家族と共に玉川別邸で



昭和13年7月頃墓参（於弘前禅林盛雲院）



昭和13年7月頃、故郷弘前を訪問の際（於公園）



昭和14年4月、蒙古徳王令息トガルソロン日本留学中大井町自宅に滞在



昭和14、15年頃、旧藩主津軽義孝伯爵を囲んで（津軽家財政顧問時代）



昭和14、15年頃、青森県人会で朝田男爵と共に（於東京・新聞連合社撮影）



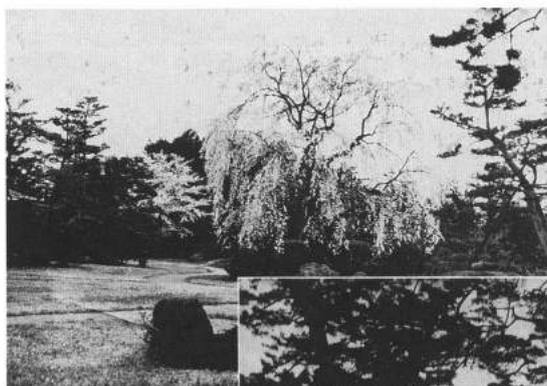
昭和19年3月、五男謙五任官出征の際
（於三越・藤田謙一生前最後の写真）



日本少年団連盟総長代行として



当時の藤田別邸々宅



藤田別邸の庭園



藤田別邸庭園より西方を望む



▲藤田別邸々園における藤田謙一

特命検閲使の宿舎となった藤田別邸



弘前市公会堂

大正12年いまの市庁舎の場所に竣工したこの壮大な建造物は、市民の会合、催しの場として大いに利用され、昭和30年代に解体されるまで親しみ愛された。



育英社正門を出る藤田謙一



育英社舎生と共に



(相撲をとる右が斎藤義雄医学博士、左が時子山常三郎早大総長)



昭和13年7月頃、研修生に
挨拶する藤田謙一
(於岩木町常盤野・藤田農場)



藤田農場における嫁入風景



昭和2年5月9日、育英社の舎生たち

右より齋藤武博、小笠原正雄、長谷川淳、小宮山七郎、小野三郎、
鎌田正男、百沢進八、川崎邦夫、船水四郎、小田切潔

発刊のことば

弘前商工会議所

会 頭 齋 藤 熊 五 郎

わが弘前商工会議所は、昭和六十二年を以て創立八十周年を迎えました。私共はその記念事業の一つとして、かねてより念願しておりました郷土の先覚藤田謙一氏の伝記の刊行を取り上げ、企画を進めて参りましたが、このたび関係各位のご協力により上梓をみる事が出来ましたことは、まことにご同慶の至りであります。

藤田謙一氏は弘前市出身の大実業家でありまして、東京商工会議所の第五代会頭在任中、日本商工会議所の創設に奔走し、その設立と同時に初代会頭に推され、わが国経済の振興に活躍せられましたことは、まことに郷土の誇りとするところでありますが、同氏のお人柄、事蹟の数々については残された記録の少ないことが痛感されておりました。

これは、過去にいわゆる「売敷事件」に連座し、栄光ある座より失脚の止むなきに至ったことが原因し、稀有の政商であったが故に思わざる策謀に陥入れられたものと残念に堪えません。しかし、当時内外の経済、政治活動に偉大な足跡を印されたことは決して忘れ得ざるところであります。

翻って、弘前市にとりましても旧制官立弘前高等学校創設への協力、当時県民の眼を奪った壮麗極

まりない白亜の殿堂弘前市公会堂の寄贈、東奥義塾への支援を含む育英事業の推進、藤田農牧場の開拓、藤田別邸の建設等々、地域文化振興のため払われた貢献の数々は数うるに遑がない程であります。特に昭和初頭の金融恐慌には、地元金融機関が格段の御心労御幹旋をいただいたと承っております。さらに、昭和十七年、氏は時の当弘前商工会議所会頭宮川忠助氏等にアドバイスし、総理大臣、鐵道大臣に陳情せしめた青函海底トンネルが、五十年後の今日、世界に冠たる我が国の技術をあつめて華開き、本誌刊行と時を同じくして供用開始の運びとなりました。これこそ正に藤田謙一氏の先見の明を具象するものであり、私共の畏敬してやまぬところであります。

本誌の刊行にあたりまして、貴重な資料を御貸与下さいました御遺族並びに各方面において御協力下さいました皆様に厚く御礼を申し上げます。特に、その題字につきましては、弘前市長福士文知氏が快く揮毫をご承諾下さり、市制百周年を目前にした当市と藤田謙一氏の縁を現代に復活せしめたものと、感慨にたえません。さらに執筆の労をとっていただいた稻葉克夫先生の御厚意に対し厚くお礼申し上げます。本誌が後世に永く伝えられ、郷党の発奮に資することを念願し、発刊の御挨拶と致します。

藤田謙一——初代日本商工会議所会頭——

目次

発刊のことば 1

第一章 上京の日まで

1 生いたち 11

2 小学生時代 11

3 弘前高等小学校・東奥義塾の頃 13

4 青森県庁給仕 15

第二章 熊野博士書生時代 17

第三章 役人時代 21

第四章 神戸鈴木商店グループの実業人として

1 岩谷天狗堂 27

2 名古屋小栗家の整理 28

3 東京毛織株式会社 31

4 日本活動写真株式会社 34

5	藤田流社員管理	59
---	---------	----

第五章 東商ならびに日商会頭として

1	東京商工会議所	47
2	渡辺書記長の登用	51
	藤田謙一氏の日本の経済界に対する功績を思う？	51
	渡辺 鏡蔵	

第六章 ILO（国際労働機関）日本代表として

1	ILO総会	63
2	訪欧餘録の国際観	69

第七章 政商としての一面

1	貴族院議員選挙	81
2	売敷事件	90
3	黒幕	98

第八章 「世界平和への道」の構想	105
------------------	-----

第九章 弘前と藤田謙一

藤田育英社	121
-------	-----

藤田先生と育英事業	柘山 寿郎
-----------	-------

藤田先生についての個人的回想	玉虫 文一
----------------	-------

藤田先生を偲ぶ	原 為徳
---------	------

藤田育英社の思い出	斎藤 武博
-----------	-------

育英社生活ほか	時子山三郎
---------	-------

2 官立弘前高等学校	148
------------	-----

藤田謙一さんのこと	楠美 省吾
-----------	-------

3 藤田農場と東奥義塾	154
-------------	-----

4 藤田別邸と弘前市公会堂	167
---------------	-----

5 第五十九銀行の救済	173
-------------	-----

6 郷土へのメッセージ	179
-------------	-----

第十章 藤田謙一の人物像	183
--------------	-----

父の思い出	不破 謙友
-------	-------

父の思い出	藤田 謙五
追憶の藤田謙一先生	楠美 省吾
藤田謙一先生を憶う	羽賀良太郎
先生と私	柘山 寿郎
藤田謙一について	藤山愛一郎
藤田謙一氏の思い出	渡辺 綱雄

附 録

(一) 年 譜	217
(二) 公共的実績	228
(三) 公共的社會教化事業に寄附した金額	231
(四) 系 図	234
参考文献	237
稿を終えて	稲葉 克夫 239
あとがき	福永 尚朔 242
	広報委員会委員長